

# 《資料館便り》

平成 29 (2017) 年

1 2 月号



石川町立歴史民俗資料館は、町の文化財保存と活用、町民の教育、学術及び文化の発展を目的に、昭和 49(1974) 年秋に開館しました。公的施設としては、県下のさきがけの一つです。

「資料館便り」編集：発行 石川町立歴史民俗資料館  
〒963-7845 石川町字高田 200-2 0247 (26) 3768

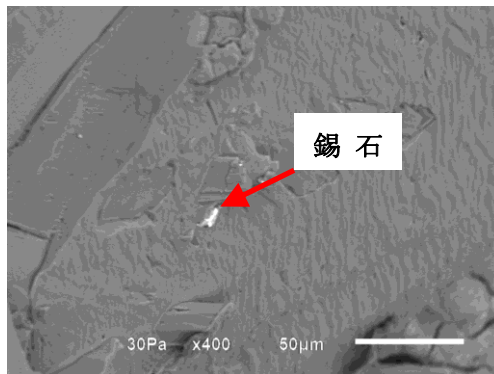
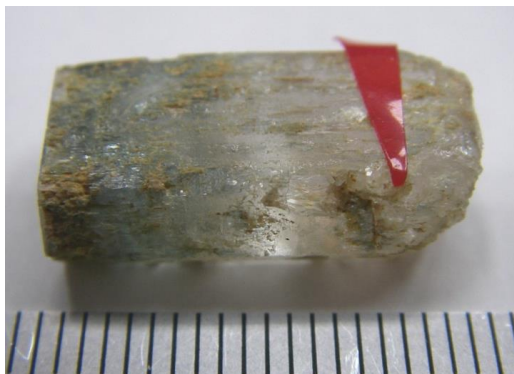
## 石川地方新産ペグマタイト鉱物の紹介

### ～石川町のペグマタイトから錫石を初確認～

石川地方では、これまでに 157 種類の鉱物が確認されており、その内、ペグマタイトからは、77 種類が報告\*1されています（平成 29 年 8 月 1 日現在）。このほど、78 種類目の鉱物として「<sup>すずいし</sup>錫石」が確認されました。石川地方で錫石は、石川町の山橋地区のスカルン\*2から少量産出したものが報告\*3されていますが、ペグマタイトからは初めての発見となります。今回の発見には、<sup>でんしけんびきょう</sup>電子顕微鏡が活躍しました。電子顕微鏡とは、数十～数百分の 1 mm という、目に見えないほど小さな物体を拡大して観察できる、特殊な顕微鏡です。新しい技術の活用により、今後、さらなる発見が期待されます。

#### <sup>すずいし</sup>錫石 (Cassiterite) 化学式：SnO<sub>2</sub>

錫石は、<sup>すず</sup>錫（ハンダや<sup>せいどう</sup>青銅、ブリキなどに使われる金属）の重要な資源です。国外ではインドネシアや中国で多く産出し、国内の産地としては<sup>あけのべ</sup>兵庫県明延鉱山や<sup>なえぎ</sup>岐阜県苗木地方などが知られています。



#### ↑ <sup>りよくちゆうせき</sup>錫石が含まれている<sup>りよくちゆうせき</sup>緑柱石（左）と電子顕微鏡写真（右）（産地：石川町）

左写真の赤いシールの先から、錫石が見つかっています。その大きさは<sup>マイクロメートル</sup>10µm (=100 分の 1mm) 以下で、肉眼では認められません。右写真は電子顕微鏡で拡大した写真です。明るく光っている部分が錫石、周囲の暗い部分は緑柱石です。電子顕微鏡に付属している<sup>ぶんせきそうち</sup>分析装置で元素を調べたところ、<sup>すず</sup>錫と酸素（錫石の主成分）が検出され、これが鉱物鑑定の決め手になりました。電子顕微鏡観察と元素分析は、林信太郎先生（秋田大学教育文化学部）と、緒方武幸先生（秋田大学国際資源学教育研究センター）に、ご協力頂きました。

\* 1 今年度資料館企画展図録『福島県の石 石川町のペグマタイト鉱物・片麻岩』による。なお、12 月 26 日に配信しました「資料館だより」におきまして、これまで石川町のペグマタイトからは 79 種類が報告され、今回発見の錫石で 80 種類目になると述べましたが、数に誤りがありましたので、上記の数に改めて訂正いたします。

\* 2 スカルン … <sup>せっしよく</sup>石灰岩と<sup>へんせいがん</sup>花崗岩のマグマの接触部分にできる変成岩のなかま。

\* 3 『日本岩石誌IV 変成岩』（柴田秀賢，1968，朝倉書店）による。